令和4年度宇都宮南高等学校 学校自己評価・学校関係者評価表

		(1)主体性の育成	(2)確かな学力の育成	(3)内外に開かれた教育環境（働きやすい職場環境を含む）の整備
本年度重点目標		ア 自己有用感、自己管理能力を育む指導 イ 学校の特色化に資する文武両道の奨励 ウ 進路指導の充実	ア 丁寧で分かる授業の実践 イ 家庭学習・居残り学習等の習慣化に向けた工夫・改善 ウ 教職員研修の充実 エ 新旧2つの学習指導要領への対応と評価	ア 働き方改革の推進 イ 危機管理の徹底 ウ 教職員の心と身体の健全化
1学年	具体目標	○ルールやマナーを遵守し、自律した生活を送れるよう意識させる。場に応じた行動がとれるよう助言、指導する。 ○部活動、学校行事等、真剣に全力で取り組ませる。集団の中で個性に応じた役割を担えるようにさせる。 ○面談等を通して個別にきめ細やかな進路選択のアドバイスを行い、自分で進路について考える力を付けさせる。	○自ら思考・判断する場面をつくり、主体的に課題を解決する力を育成する。 ○Classiやteamsを活用させることにより、スケジュール管理する習慣をつける。家庭学習の成果を記録し、PDCAサイクルを確立する。 ○外部機関等の講習や研修に参加する機会を設ける。 ○3観点評価を実施し、よりよい評価方法を模索していく。	○学年内の分掌を効率的に果たす。 ○配慮を要する生徒を把握し、情報共有を徹底する。生徒の学習環境の整備と改善に努める。 ○お互いに声のかけやすい職場環境作りを目指す。
	具体方策	1)生徒の行動を観察し、不適な行為があればその場で指導すると同時に、とるべき行動を考えさせる。 2)自ら為すべきことを常に見つけさせ、主体的に活動できるよう助言する。また、活躍、貢献できるような場を設ける。 3)広い視野で進路情報を収集させる。	1)授業展開の中に、生徒が主体的、協働的に学習活動する時間を設ける。 2)週毎に振り返りを記録させるとともに、改善するための具体的方策を考えさせ、次の目標を立てさせる。 3)講習、研修の資料等を必要に応じて回覧する。 4)教科間、学年間で情報共有を行いながら、よりよい評価方法になるように試行錯誤していく。	1)起案の際、負担が大きい部分や必要性が薄い部分がないか検討し、必要に応じて協議・改善する。 2)気になることがあった場合は、学年会や担任打合せなどで必ず情報交換する。 3)学年内でコミュニケーションをよく取りながら、負担の偏りがないよう協働体制を築いていく。
	段階評価	B	B	B
	評価理由	1)始業10分前の朝学・朝読が徹底されておらず、学年全体が騒然としていることがある。12月の学年集会で指導したが、継続的に指導していく必要がある。 2)部活動にはある程度しっかりと取り組んでいた。 3)面談の時間確保がなかなかできない。働き方改革を推進して生徒と向き合う時間を確保する必要がある。	○家庭学習時間の確保が十分でない。面談や教科指導の際に根気強く指導していく。 ○観点別評価はまだ教員側が慣れていない。試行錯誤を繰り返してよりよい評価につなげたい。 ○Classiでの学習記録は生徒に定着していない。Teamsを活用できないか。	○正担任の負担がやや多かったのではないかと。登校指導やアンケート集計などで副担任や学年付きの先生方のお力を借りられるとよい。 ○担任会での情報交換はよく行っていたが、副担任の先生への伝達が滞ることがあった。職員室の座席配置などの工夫で改善できないか。
学校関係者段階評価		B、B、B、B、B		
学校関係者評価理由		[Aさん] 記載内容から、「具体目標」は概ね達成していると思われる。今後は教員の働き方改革のさらなる推進により、生徒と向き合う時間が増えていくことを期待する。 [Bさん] 高校生としての自覚を持つように継続的な指導・習慣づけに努力している。 [Cさん] 部活動において、素晴らしい成績を残しており評価できる。しかし、朝学・朝読、さらには家庭学習など、基本的な学習習慣が十分とはいえない。今後の改善に期待したい。また、教員間の連絡漏れについては、早急な改善が必要と思われる。教員間の連携の強化に期待する。 [Dさん] 始業10分前行動は常識なので、引き続きの指導を願いたい。 [Eさん] コロナ禍の制限がある中、学校生活の状況、学校側からの説明、評価内容から見て概ね良好と思われる。		
2学年	具体目標	○協働的な活動を通して他者から認められ、他者の役に立っていると感じられる絆づくりを進める。また、自らの生活を客観的に見つめ直し自己管理できるようにさせる。 ○学校の諸活動に積極的に取り組ませ集団の一員として進んで貢献できる意識を確立させる。 ○自らの生き方を考え進路選択ができるようにさせる。	○主体的に問題解決に取り組む姿勢やそれに基づいた手立てを準備し「問題意識を生む」「問題意識をつなぐ」という視点を考え授業を行う。 ○基礎学力や応用力をつけるために主体的な学習を習慣づけ、進路への関心を高めさせる。 ○現代的な諸課題に対応するために、多様な教材・資料等を活用する。 ○大学入学共通テストに対応できる能力の促進。	○学年担任間での情報の共有を図る。 ○安全確保に万全を期したうえで自己ベストを目指す。
	具体方策	1)生徒一人一人に活躍の場を設定し、役割を与え、それを果たした努力を承認する。また白手帳を利用し朝食、運動、睡眠などの生活習慣を把握的確なアドバイスをする。 2)部活動、生徒会、諸行事に主体的に参加させる。また、地域交流、国際交流活動に積極的な参加を促す。 3)総合的な探求の時間や進路学習講座などを通し、進路に対する理解を深めさせる。	1)学習内容に繋がる気付きや疑問を持たせる。また、それに対する考えを明確にし、詳しく表現させる。 2)ClassiやTeams活用し目標設定と振り返りを実施させる。 3)Benesse等のシステムの活用により、多様な大学入試に対応できる能力を養う。 4)全科目で定期考査において論理的思考力を問う問題を1問設定し、1年後の共通テストにつなげる。	1)情報を共有し、風通しの良く、生徒を第一に考えた仕事ができるようにする。 2)安全確保をしながら部活動、生徒会等の行事、及び国際交流や地域連携活動関係の行事へ積極的に参加させ、活動を通して自分の役割を認識し、コミュニケーション能力を伸長させる。
	段階評価	B	A	B
	評価理由	1)白手帳の活用はClassiの入力などに移り変わり、その活用方法は見直される必要が出てきている。 2)各クラスの部活動加入状況は良好であり、部活動に加入していない生徒も地域のスポーツクラブやボランティア活動に所属している者が多い。学校内に留まらず、コミュニケーション意識の高い活動を促すことができた。 3)年度当初の学習オリエンテーションによって、高校生としての意識付けをすることができた。また、進路学習講座や文理選択説明会などとおして、その時に必要な進路に対する意識の構築を図ることができた。	1)探究活動において、それぞれの意見を出し合い、その内容を口に出して表現することの重要性を繰り返し伝えてきた結果、生徒たちの議論の高まりを感じる事ができた。 2)定期テストにおける目標や振り返りなどを入力させることにより、生徒個人の意識を高めていくことができた。 3)夢ナビ等を活用することにより、進学後の学びに早いうちから興味を持たせ、進路意識を高めていくことができた。 4)論理的思考力を高めることを意識した授業授業展開や設問を全教科で意識していただくことができた。	1)学年会や担任会などとおして生徒の情報共有を図り、担任不在でも個々のケースへの対応をスムーズに行うことができた。 2)感染症の影響もあり、国際交流や地域関連行事は制限されることが多く、目標が達成されたとは言い難い。
学校関係者段階評価		B、B、B、B、B		
学校関係者評価理由		[Aさん] 記載内容から、「具体目標」は概ね達成していると思われる。 [Bさん] コロナ禍で目標に達することが難しい時期にスキルをあげることができたことを評価する。 [Cさん] ClassiやTeamsなど積極的に新たな方法を取り入れながら改善に努めている点は素晴らしい。新しいことが定着するには時間がかかるので、学校・学年で継続して取り組んでほしい。また、探究活動の成果や夢ナビなどの活用により学習習慣も定着しつつあるだけでなく、部活動やスポーツ活動にも積極的な生徒も多いように見受けられる点も良い。学年で成果を出した事例は、学校内で共有し、学校全体の取り組みになるように共有して行ってほしい。 [Dさん] 勉強だけでなく、運動または地域ボランティア活動を通じてコミュニケーション能力を高める活動は評価できる。 [Eさん] コロナ禍の制限がある中、学校生活の状況、学校側からの説明、評価内容からみて概ね良好と思われる。		
	具体目標	○学校行事等に全力で取り組ませる。 ○進路実現のために、実力をつけて進学、就職できるよう努力を継続させる。	○自ら思考・判断する場面をつくり、主体的に課題を解決する力を育成する。 ○充実した進路指導を行うために、新しい情報を生徒に提供出来るよう努力する。	○効率よく学年業務が行える様に、業務内容や方法の整備を行う。
	具体方策	1)自ら為すべきことを常に見つけさせ、主体的に活動できるよう見守る。 2)広い視野で進路情報を収集させる。1ランク上の目標を提示し、達成できるよう助言する。	1)授業展開の中に、生徒が主体的、協働的に学習活動する時間を設ける。 2)様々な大学等の説明会や研修に参加する機会を設ける。	1)各係の業務が効率よく行えるように精選や見直しを行う。 2)teamsを活用し、業務の効率化を図る。

3学年	段階評価	B	B	A
	評価理由	1)メリハリをつけて行事を全力で楽しむ姿が見られた。最後のマラソン大会も3年生が上位に名前を連ね、色んなことに意欲的に参加する姿が見られた。 2)面談を密におこない、保護者との連携を取りながら生徒が志望する進路実現を支援することができた。	1)主体的に学習する生徒は入学当初から比較すると格段に増えた。状況に応じた応用力を発揮できる生徒が増えてきてほしい。 2)外部機関等の説明会に積極的に参加し、担任間で共有することができた。また、その情報を生徒に還元もできた。	1)学年で協力し合い、精選を念頭におきながら各種行事に向かうことができた。特に副担のサポートが良好であり、支障なく実施できた。 2)teamsでの情報共有ができ、生徒への連絡や授業配信も迅速にできた。
	学校関係者段階評価	B、B、B、B、B		
	学校関係者評価理由	[Aさん] 記載内容から、「具体目標は概ね達成していると思われる。特に進路指導において、面談などの取組をきめ細かく実施したことは評価できる [Bさん] 生徒・教職員が目標を達成するために努力していた。 [Cさん] コロナ禍の影響をもっとも受けた学年であったため大変だったと思うが、具体方策や評価理由を見る限り、先生方の努力や連携が素晴らしいと感じる。また、生徒や保護者とも情報を密にすることで、主体的に学習する生徒の増加や志望進路への支援ができてきている様子も素晴らしい。例年通りには行かなかった点が多い中の成果としては、大変素晴らしい結果だと思う。 [Dさん] 主体的に学習する生徒が日々増えている。引き続き指導してほしい。 [Eさん] コロナ禍の制限がある中、学校生活の状況、学校側からの説明、評価内容から見て概ね良好と思われる。		
教務部	具体目標	○国際理解教育、地域連携活動に協力する。	○生徒の適性・能力に応じた学習指導を充実する。	○業務が効率よく行える様に、業務内容や方法の整備を行う。
	具体方策	1)学校全体の対応として積極的に協力する。HPを充実させる。	1)今年度からの教育課程が生徒の適性や進路希望に即しているかチェックし検討する。 2)研究授業を充実させる。 3)GIGAタブレットや校務支援システムの活用に関する校内研修を行う。	1)各係の業務の進行を管理し、業務を効率よく行えるように精選や見直しを行う。 2)行事の精選、見直しを行う。 3)校務支援システムを活用し、業務の効率化を図る。
	段階評価	B	A	B
	評価理由	1)学校行事等で、日程や実施場所等の調整に協力した。HPの整備を行い、各分掌や部活動等に充実を図るよう働きかけた。内容はかなり充実したが、部活動によって活動内容の更新に差が出てしまった。	1)教育課程検討委員会を通して今年度入学生からの教育課程について見直しを検討した。 2)研究授業の計画を立て、予定通り実施できた。 3)1学期をからタブレットを全校生徒に貸し出し、オンライン配信が行える環境を整えた。GIGAタブレットや校務支援システムの研修も実施した。	1)朝の打ち合わせや企画委員会、職員会議の資料をデータで配信することで、業務が軽減できた。 2)行事の精選や見直しは検討したが、大きな見直しはできなかった。行事の進行等で改善できる部分は効率化をはかれた。 3)校務支援システムが活用されるように、システム上の項目ごとに管理・活用する分掌の係を紐づけて、各係でどのように校務支援システムを活用するかの指針を示した。
	学校関係者段階評価	B、B、B、B、B		
	学校関係者評価理由	[Aさん] 「地域連携活動」については、宇都宮市立南図書館を生徒の活動の場（作品展示や研究成果の発表など）として、積極的に活用いただきたい。 [Bさん] 創意工夫し充実していることを評価する。 [Cさん] 生徒の適性・能力に応じた学習指導の充実や業務の効率化が図れたことなど、素晴らしいと思う。今後GIGAタブレットのさらなる活用として、小・中学校の取り組みなども踏まえて取り組むことを期待する。 [Dさん] 全校生徒にタブレット端末を配布しオンライン配信できる環境づくりが評価できる。 [Eさん] コロナ禍の制限がある中、学校側からの説明、評価内容から見て概ね良好と思われる。		
渉外部	具体目標	○学校と家庭、地域との連携をはかり、生徒の社会性を育む教育活動を推進する。 ○保護者間の連携を深め、学年部会、各種専門部会、支部会活動の充実を図る。 ○PTA、同窓会、各種団体との連携を図り、円滑に事業を実施し、さらなる学校発展に寄与する。	/	○PTA役員保護者の負担を考え、運営委員会や専門部会を精選し、来校する回数を減らせるよう努力する。 ○PTA生活指導部保護者協力の登校時の交通立哨指導により、自転車通学の生徒の安全確保の一助とする。
	具体方策	1)PTA活動について、役員、学年委員、支部会、部活動理事などが中心となり、学校と家庭の連携を密にして、充実した教育活動を推進する。 2)同窓会活動について、同窓会理事と連絡を密にしながら、連携を取り、活動を円滑に行えるように努める。		1)PTA会長・副会長及び執行部役員と綿密にコンタクトをとり、意見を伺い、決定していく。 2)本校生徒指導部交通係と連携し、交通立哨指導を計画・実行していく。
	段階評価	B		B
	評価理由	1)今年度もコロナ禍でPTA活動がかなり制限されたが、研修部のお骨折りで3年ぶりにPTA校内研修会(ピラティス)を開催することができた。また、昨年度と同様にご尽力いただいたものは、広報部による年2回の広報誌「みなみ」編集、支部会役員による朝の交通指導および今年度から厚生部も加わったマラソン大会立哨指導、総務部の牛乳パック回収事業である。 2)7月の同窓会総会および懇親会では、コロナ禍で延期していた年次を含めて3期分をまとめて開催することができた。		1)実際にPTA会長をはじめとする執行部役員、及び、各支部会支部長と密に連絡をとり、左記の活動を遂行できた。 2)同窓会理事の方々と連絡を密にとり、3期合同という多数の年次会を滞りなく開催するために出来得る対策を考え、何とか実施することができた。同窓会理事からも、係職員の対応に感謝いただいた。 3)各種団体では、主に募金について、学校内外との連携を取ることができた。
	学校関係者段階評価	B、B、B、B、B		
	学校関係者評価理由	[Aさん] 「PTA研修会」や「同窓会総会・懇親会」を3年振りに開催するなど、コロナ禍で活動が制限される中、コロナ前の状態になるよう尽力している。 [Bさん] 大変苦勞して実施したことを高く評価する。 [Cさん] コロナ禍の影響により、PTA活動が予定通り進めることができない中でも、PTA役員との連携が密に行っていたことは素晴らしい。まだコロナの影響は無くならないが、引き続きPTAとの連携強化を期待したい。 [Dさん] 3期合同という大変大規模な同窓会総会及び懇親会開催の対応に心から感謝する。 [Eさん] コロナ禍でPTA活動に制限があるものの、その中でも活動できたことは評価できる。		
	具体目標	○健康の保持増進を図る。 ○気力・体力の向上を図る。	○校舎内外の美化に努め、公共物の愛護の心を養成する。 ○緑化の推進にあたる。	○防災・安全対策を適切に実施する。
	具体方策	1)保健室運営方針に基づき、保健計画を適正に実施する。 2)「保健みなみ」を活用し、保健委員の活動を指導する。 3)クラス出席率99%以上を目標とし、教育相談と連携を図りながら養護指導を行う。 4)体育活動を通し体力の向上を図る。 5)体育施設の整備・用具の充実を図る。 6)校内マラソン大会を成功させるよう事前準備を十分に行う。	1)全職員が清掃監督に当たり清掃美化を徹底する。 2)校内美化の意識を養う。 3)花壇整備など、緑化活動を積極的にすすめる。 4)勤労体験の場をつくり、奉仕の精神を涵養する。	1)消防・防災・避難計画により安全・迅速に行動するように努める。 2)施設・設備の定期的な点検を実施し、事故防止に努める。

	段階評価	A	B	B
健康 指導部	評価理由	1)自らの健康状態を正しく把握し、自主的に健康な生活を実践できる力を育てるとして、自己の体調を自分なりに考え、伝えることができる生徒が増えた。しかし、未然に生活習慣に注意を払える生徒は、保健室利用者においては少ない傾向にある。 2)保健だよりにおいて、指導したいテーマに焦点を絞り、生徒に訴えかけることができた。また、性教育講演会やAED講習会など、行事に関連付けて発信することで、その後の保健指導に生かすこともできた。 3)教育相談関係の保健室利用生徒については、担任を軸とし教育相談と連携を図ることができた。 4)コロナ第8波等により欠席者が増加傾向ではあったが、常に感染対策をとりながら体力の向上を図ることができた。 5)整備充実が図られた。 6)やや準備が遅いところもあったが、今年度は保護者立哨指導の協力もあり、より安全にマラソン大会を実施することができた。	1・2)限られた時間で清掃に取り組んでいる。ゴミの削減、分別など美化意識は高まっている。 3)昨年度はトイレ工事等で実施できなかったが、今年度は美化緑化委員会を中心に緑化活動をすすめることができた。 4)コロナ禍で外部との活動が振るわなかった次年度の課題とした。	1)先生方の事前の指導により迅速に行動できていた。今年度も消防署指導の消化活動ができなかったのは残念である。 2)定期的な点検、事務部の速やかな対応により修繕も早く事故防止が行えた。
	学校関係者段階評価	B、B、B、B、B		
	学校関係者評価理由	[Aさん] コロナ禍が長期化する中で、学校からのクラスター発生や、個々の生徒が罹患することがないよう、生徒の健康管理については細心の注意をもって取り組んでいる。 [Bさん] 安心安全な学校生活を送ることができたことを評価する。 [Cさん] 生徒、職員の健康管理や感染対策、校内の美化に努めた取り組みなどすばらしい。特に、コロナの問題は先が見通せないところがあるので、そのときの状況にあわせて引き続き健康や安全に努めていただきたい。 [Dさん] 保健計画に基づき自分の体調をコントロールできる生徒が増えたことが評価理由である。 [Eさん] コロナ感染により出停等増加傾向にあったが、学級閉鎖等のクラスターが発生しなかったことは評価できる。		
学習 指導部	具体目標	○主体的に学習に取り組む態度を育成する。 ○自己の将来につながる課題を見つけて解決を図る探究学習を実践する。	○授業改善、学習評価の工夫（新旧学習指導要領に基づいて）に取り組む。 ○将来を見据えた振り返り・改善を行うことで、家庭学習を習慣化する。	○学習指導部内分掌、学年、教科を通じて情報共有に努め、共通認識の下、業務の効率化を図る。 ○学習不振、学校不適応生徒に対して、教育相談、学年・教科等との連携を図り、迅速適切な対応を行う。
	具体方策	1)主体的学習態度の育成 ①10分前登校と朝学の奨励 ②学習生活ノート（白手帳）やClassiの有効活用 ③教科係やホームルーム委員長など役割を通じた主体性の育成 ④人権教育・主権者教育・福祉教育・国際理解教育・地域連携活動・図書活動等の教育活動を通じた学習意欲の喚起と実践 ⑤「南爽ルーブリック」を踏まえた生徒への学習指導 2)探究学習の実践と充実 ①各学年における自己の将来を見据えたテーマ選択、探究活動の実践 ②各教科での探究的学習姿勢の育成	1)授業改善、学習評価の工夫 ①AL授業の実施や学習評価の工夫（ルーブリックによる評価） ②授業見学の励行 ③研究授業、授業研究会、教員研修会の開催 2)家庭学習の習慣化 ①学習生活ノート（白ノート）やClassiの有効利用 ②適切な課題・小テストの実施 ③スタディサポートの有効活用 ④授業及び定期試験等を通じた学習到達度の把握と個別対応 ⑤成績不振者への支援（試験前、その他）	1)情報共有等による業務の効率化 ①各担当、学年、教科の連携による指導の充実および業務の効率化 ②年間学習指導計画の共有と、各教科等の横断型授業の実施による生徒の幅広い知識習得等への工夫 2)対応の迅速化 ①関係各部との情報共有・連携強化による学習不振、学校不適応生徒に対する迅速かつ適切な対応
	段階評価	B	B	B
	評価理由	1)①多くの生徒が努力して取り組んでいる。一部習慣化できない生徒もいるので雰囲気は壊れるという残念なことも起きているので、意識を高める指導が今後も必要である。 ②各学年ともにClassiが活用され、学習生活ノートの利用はあまり見られなくなった。⑤観点別評価において「南爽ルーブリック」を踏まえることとしているが、不十分と思われる。どう関連させていくか工夫を要する。 2)①②探究学習では学年が上がるにともなって進め方に発展が見られる。学校全体としての取り組みの指針を改めて考える必要性も感じているところである。	1)コロナ禍ではあるが、感染対策を講じながら通常に近い学習活動が行えるようになり、ICTの積極的活用など工夫された授業が実施されている。なお、観点別評価は研究の余地があると思われる。 2)家庭学習は取り組み状況に差があり、うまく軌道に乗れず、成績も芳しくない生徒も見受けられる。1年生からの学習習慣確立は重要であることから、教科・学年と部の連携を今後も図り、工夫を凝らしていきたい。	1)校務支援システムの導入により業務の効率化が図られる予定だったが、機能面が学校現場とかみ合わないところがあり、次年度以降の利用に課題がある。シラバスは1年生より学校HPに掲載したが特に問題もなかった。来年度は全学年同様の対応とする。 2)学校不適応生徒だけでなく、感染症の影響等で登校できない生徒への学習環境を保障する方策を整える必要性が高まっている。担任や教科担当者が適切に対応しているが、体制作りは必要である。
	学校関係者段階評価	B、B、B、B、B		
学校関係者評価理由	[Aさん] 学校アンケート結果にもあったが、コロナ禍の中、学校からの家庭学習に対する取組・指導が大きな課題となっているようだが、家庭学習は学校外であり、学校（教員）の指導にも限界があると思われる。 [Bさん] 昨年同様、家庭学習の習慣づけ・学習不振・学校不適応生徒の対応等に取り組んでいることを評価する。 [Cさん] Classiやルーブリックの活用など、生徒の学力向上に向けた新たな取り組みを実践し、基本的な学習習慣（家庭学習を含む）を目指していることは大変素晴らしい。新しいことを定着させるには、時間のかかることなので、引き続き継続してほしい。また、小学校での取り組みの中にあつたが、自学の定着のために定期的に自学ノートを児童同士で評価し、ランキングを付けている学校もある。その結果、家庭での自学の質が向上したとのこと。高校でも探究活動と絡めて、家庭学習の強化を図ったり、反転学習に取り組んだりなどの方法など学校としてさらに学習習慣を高める取り組みが行われることを期待する。 [Dさん] ClassiやICTを積極的に活用し工夫した授業が実施されていることを評価する。 [Eさん] コロナ禍ではあるが、感染対策をしつつ、工夫された授業が行われている。また、生徒たちの授業に対する取り組み姿勢が良いと評価できる。			
進路 指導部	具体目標	○進路実現のため生徒自ら励むとともに、力を伸ばすために生徒同士が協働するよう意識を高める。 ○校外の諸活動への参加を促し、生徒の個に合った強みを育成する。 ○生徒が納得できる進路選択に向け、助言および情報提供を充実する。	○進路実現に向けた、思考力、判断力、表現力を伸ばす授業を行う。 ○生徒に進路に対する関心を高めさせ、計画的な学習ができるよう指導する。 ○新課程科目での授業実践の共有と、研究会等への参加を促進する。	○部および学年担任との連携と情報の共有を図る。 ○生徒がベストの状態状態で活動できるよう、安全確保に万全を期す。
	具体方策	1)学年・クラスで、進路実現に向けた共通意識を形成し、相互の支え合いや励まし合いにより努力できる環境作りを進める。 2)部活動、生徒会活動のほか、ボランティア活動、学校説明会等への積極参加を勧める。 3)進学、就職に関する情報を収集し、速やかに生徒・保護者に提供できるよう努める。	1)入学試験や入社試験の問題を適宜分析し、求められている力が身につくよう課題、発問等を工夫する。 2)白手帳やClassiを利用させ学習記録の習慣をつけさせ、随時振り返ることにより学習の質を高めていく。 3)教科打合せで、授業の実践事例や参加した研究会の要旨等を共有する。	1)面談等で得た生徒の情報を、学年および進路部教員との共有に務める。 2)学年集会やHR等で、受験や校外活動の際には安全面の指導についても徹底する。
	段階評価	B	B	B
	評価理由	1)生徒の中には、「進路実現」について思い描けない生徒もおり、HRや授業、集会等での情報提供を拡充する必要がある。 2)2学年で、上級学校のオープンキャンパスへの参加指導にアプリを利用するなど、参加を促す方を試行することができた。 3)学校評価アンケートの結果から、進路に関する情報提供の方法について再検討する必要がある。	1)新課程での入試がどのように変化するか情報を集め、対応する受験指導体制を構築していくことが課題である。 2)生徒のClassi利用は、個人差はあるが概ね良好であり、模擬試験実施後の振り返り等にも活用されてきている。 3)新課程の初年であり、実践事例の継続的な蓄積が必要である。	1)学年内の情報共有は良好であるが、他学年間でのさらに連携が図れるよう試みたい。 2)新型コロナウイルス感染症への対策に加え、交通事故防止等、生徒指導部の指導と合わせ注意喚起できた。
	学校関係者段階評価	A、B、B、B、B		
学校関係者評価理由	[Aさん] 進路指導については、現在においても適切に実施されていると思われるが、保護者の関心が非常に高い分野であることから、個々の生徒（保護者）に対するきめ細かな情報提供・指導により、保護者の満足度のさらなる向上につとめてほしい。 [Bさん] 熱心に指導していることを評価する。生徒・保護者の方への情報提供を拡充することを希望する。 [Cさん] 生徒へのキャリア教育やオープンキャンパスの参加支援など継続的に行っていることは評価できる。しかし、その情報提供に課題があるようなので引き続き検討すべきである。さらに、新課程での入試の変化への対応も同様である。一方、自分の将来を思い描けない生徒が増えているように感じている。進学、就職など生徒の不安を解消できる体制の充実などについても検討してほしい。 [Dさん] アプリを利用し、上級学校のオープンキャンパス参加指導を行っている点を評価する。 [Eさん] 学年部会等での入試方法、特に推薦入試制度の説明を改めてほしい。同時に生徒自身での入学試験、入社試験の方法等各自にてきちんと情報収集するよう今後も指導してほしい。			

生徒 指導部	具体目標	○自己指導能力を育成し自信と誇りを持てる生徒の育成 ○教育相談活動などの一層の活性化	○いじめ防止と安心して学業に励むことのできる環境の整備	○生徒に応じた生徒指導諸問題への対処
	具体方策	1)自己指導能力を高め自信と誇りを持てる生徒を育成する。 ①凡事徹底と基本的な生活習慣を確立する。 ・制服を正しく着用させ学校への帰属意識を高める。 ・遅刻指導と「チャイムtoチャイム」を徹底する。 ・気持ちの良いあいさつや礼儀が良き伝統となるよう指導する。 ②自己管理能力を育成する。 ・自ら交通ルールを遵守する態度を養い交通事故を半減させる。 ・貴重品管理の指導を継続し、盗難を未然に防止する。 ・整理整頓を心掛けさせ、遺失物を減少させる。 2)教育相談活動などの一層の活性化を図る。 ①SCを活用した特別支援の体制をより充実させる。 ②個人面談での情報を職員間で共有し、不登校生徒などの早期発見や早期対応に努める。	1)いじめ防止と安心して学業に励むことのできる環境の整備 ①毎月のいじめアンケートの実施を通じ、いじめを未然に防止するとともに、安心して授業等に集中して取り組むことのできる環境を整備する。 ・改訂「いじめ防止基本方針行動計画」を職員間で共有、徹底する。 ②規範意識や人権意識の高揚、自己有用感を育成する。 ・日々の生活において、一般社会に通用する規範意識や礼儀作法やマナーなどを身につけさせる。	1)生徒に応じた生徒指導諸問題への対処 ①各係の円滑な職務の遂行と、問題発生時に迅速かつ柔軟に対応できるよう部内での協力体制を構築する。 ②日常から各部・各係、各学年との連携を深め、生徒に応じた指導となるよう諸問題に対処する。
	段階評価	B	B	B
	評価理由	1)10月の移行期にブレザーを着ないなど、制服を正しく着用できてない時期があった。本校の伝統である、あいさつ等の礼儀については、1年生で不十分な点があった。授業開始などは、時間通り行動できている。登下校中の自転車事故は、現在まで10件発生し、昨年比14件減少したものの、運転中のイヤホン使用は改善されていない。自転車の故障も目立った。落とし物や忘れ物は依然多い状況。 2)教育相談については難しい事例もあるが、不登校については対応の段階から、予防の段階に入っている。SCの予約が取りづらい時期があった。	1)毎月のいじめアンケート実施や各クラスでの面談により、いじめ発生の抑止力になっている。現在までいじめの認知は0件である。SNSの使用に関しても、講演会で実際的な注意点を学ぶことができた。しかし、トラブルも発生しており、引き続き指導を継続したい。規範意識や礼儀作法については表面的なものが多く、社会に通じる行動までは指導できなかった。	1)2学期に入り3年生で問題行動が頻発した。行動の原因等について聴き取りをしっかりと行い、社会のルール・マナーは一言で指導できないこともあり、生徒の社会性を見極めながら適切に指導できた。他との連携については、部と学年とが連携して迅速に対応できた。概ね良い方向に行動変容させることができたと思われる。今後も生徒を中心とした指導となるよう、各部・各係・各学年との連携について考えたい。
	学校関係者段階評価	B、B、B、B、B		
学校関係者評価理由	[Aさん] 今後は、評価理由に記載されているSNSに関する適切な支援に加えて、成人年齢引き下げに伴う教育（契約、消費者被害）を適切に実施してほしい。 [Bさん] 自己管理能力の育成やいじめ問題などの指導に努力していることを評価する。家庭での指導も必要ではないかと思う。 [Cさん] 自転車による交通事故が減少したことやいじめの認知が0件であったことはすばらしい成果である。しかし、潜在的なリスクとしてのイヤホンを着けての自転車の運転、水面下でのいじめなど改善などの難しい事案への対応は、継続的に学校として取り組んでほしい。 [Dさん] 宇都宮南高校に行っても、生徒たちは気持ちの良い挨拶をしてくれる。 [Eさん] 訪れてもすれ違った生徒たちの挨拶が迎えてくれる。今後も校風として残すべきである。一方で今年度の交通事故が減少しているとのことだが、自転車の並進・イヤホン使用がみかけられる。あらためて自分自身を守る交通ルールの重要性を指導してほしい。			
特活部	具体目標	○生徒会活動の充実を図る。 ○部活動の一層の充実を図るとともに適切な運営を検討する。 ○ホームルーム活動の充実を図る。	○国際理解教育・インターアクト、地域連携、福祉教育との連携を図る。	○多くの行事を実施可能にする危機管理の徹底と学校行事の変更に対する臨機応変な対応を図る。
	具体方策	1)生徒会役員をはじめホームルーム役員等のリーダーシップをとれる生徒の育成を図る。 2)諸行事では生徒の自主的・創造的活動の活性化を目指し、積極的に緻密な企画・運営がなされるよう指導する。 3)部活動への参加を奨励し、個々の特性・能力の伸長を図る。 4)礼儀正しい人間を育成する。単に技能だけを高めるのではなく、お互い協力し助け合う等、心豊かな生徒を育てる。 5)学習状況、通学状況、健康管理等、関係職員との連携を密にし、個々の生徒への共通理解の深化を図る。 6)部活動の在り方、活動時間や練習内容など、他校の模範となる部活動運営計画を構築する。 7)十分な時間数を確保し、綿密な年間計画、事前準備等により円滑な運営が行われるよう努める。 8)学校生活の基盤としての場であるので、クラス内の融和を図るとともに、自主的・自律的な態度を育てる。	1)学習指導部の国際理解教育・インターアクト係、地域連携・福祉教育係と生徒会が連携を図れるように留意する。	1)新型コロナウイルス感染症蔓延防止対策を速やかに実施するとともに、感染拡大による行事の中止、変更にも柔軟に対応する。 2)最悪を想定し慎重に素早く誠実に組織で動く。
	段階評価	B	B	B
	評価理由	1・2・7・8)学校行事、生徒会活動、委員会活動、HR活動を工夫してコロナ禍以前の形に近い状態で実施できた。 3・4)部活動の制限も緩和され感染症対策を実施した上で本来の活動に近い形で実施できた。 5・6)働き方改革やコロナ禍による活動時間の制限をふまえた長時間の練習がなくなった。	1)コロナ禍の影響で今年度も十分な活動ができなかったが、活動できる準備は整えた。	1・2)各行事を中止することなく放送やオンラインを駆使して実施できた。また、学校祭は3学年の保護者のみであったが一般公開も実施した。
	学校関係者段階評価	A、B、B、B、B		
学校関係者評価理由	[Aさん] 部活動は、生徒の心身の成長にとって重要なものであり、宇都宮南高校において、部活動が活発に行われていることは高く評価できる。 [Bさん] 少しづつではあるが、工夫して活動できたことを高く評価する。 [Cさん] コロナ禍による影響がある中、コロナ禍以前と近い形で各種行事を行うために、放送やオンラインなどの新たな方法に取り組んでいることは大変素晴らしい。また、保護者も参加できる学校祭が実施できたことも教職員の努力の成果だと高く評価する。完全に前の状態に戻るには時間がかかると思うが、引き続き学校として取り組むことを期待する。 [Dさん] コロナ禍ではあるが、少しずつ生徒会・委員会活動が行われるようになってきた点を評価する。 [Eさん] コロナ禍の活動制限があった中、生徒会活動・部活動・文化祭等感染対策をしつつ活動できたことを評価する。			
事務部	具体目標	○施設・設備の充実を図る。	/	○不具合施設・設備に迅速に対応する。
	具体方策	1)適時適切な施設整備計画を作成し、効率的な予算執行に努め、施設・設備の充実を図っていく。 2)各部との連携を密にし、整備要望の把握に努める。		1)日常の巡回巡視において、不具合箇所の早期発見に努める。 2)特に危険箇所については、修繕対応（予算要求）を迅速に行い、生徒・教職員の安全を担保する。
	段階評価	B		B
	評価理由	1・2)施設整備計画に基づいた管理特別教室棟の外壁工事が今年度末から来年度にかけて実施され、雨の差し込みが解消される見込みである。今後とも施設・設備等の充実に向けて、計画策定・要望していきたい。		1・2)予算配分が少ない中ではあるが、安全確保のため、駐輪場の段差解消や校内の駐車・誘導ラインの塗装等、公仕を中心に直営で整備した。体育館ドアの不具合等の危険箇所については、随時の予算請求・修繕実施を行っている。
	学校関係者段階評価	A、B、B、B、B		
学校関係者評価理由	[Aさん] 施設が老朽化する中において、修繕工事の必要性は年々高まっていくが、一方で執行できる予算は限られていることから、予算獲得のため生徒の安全性や利便性などを考慮した適切な優先順位付けが重要である。 [Bさん] 老朽化・低予算配分などで難しい環境の中、努力したことを評価する。 [Cさん] 生徒の安全を守り、快適な学習環境を目指して取り組んでおり、素晴らしいと思う。引き続き、学校の整備を進めて行くことを期待する。 [Dさん] 何事も限られた予算内での改善に努力していることを感謝する。危険箇所の早期発見、対応は申し分ない。 [Eさん] 施設が老朽化していく中で、生徒の安全を優先した対応をしてくれている。引き続き生徒たちの安全確保に努めてほしい。			

1. 段階評価：学校関係者による段階評価も含め、A・B・C・Dの4段階評価
2. 評価基準：[A・・・十分満足できる B・・・概ね満足できる C・・・努力を要する D・・・一層努力を要する]
3. 評価理由は、目標達成に向けた取組の状況や生徒の変容の状況などを視点として記述する。